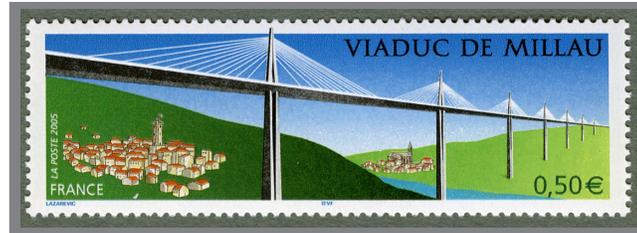


ミヨー橋

Bridges of the World

フランス・ミヨー近郊



フランス・2004年発行

ミヨー橋は、フランス南部のタルン川渓谷を渡り、谷底から斜張橋の塔頂までの高さが、橋としては世界一になるとされています。渓谷に霧がかかると、まさに「天空の橋」にふさわしい光景を見せてくれます。

この橋は、パリからフランス南西部、更にスペインへ通じる従来の国道の渋滞を緩和し、走行時間を大幅に短縮するために造られたA75号線、別名地中海高速道路の一環となるものです。橋の区間は有料で、民間企業によって運営されています。建設から運営までを民間企業が請け負い、一定期間を経て公共機関へ引き渡す方式で、フランスの大手建設会社、エファージュ社が落札し、75年間通行料を徴収することが認められています。

橋の設計はイギリス人建築家ノーマン・フォスター氏の事務所が、技術面をサポートするオランダのエンジニアリング会社と協力して行いました。現地では数年間にわたって天候や風の観測が実施されました。

橋の全長は2460m、7つの斜張橋が連続しており、中央の6スパンは342m、両端は204mになっています。7

本の橋脚によって支えられており、その最も高いものは245mで、谷底から橋面までの高さはおよそ270mになります。その上に高さ87mの塔が建てられています。

橋は自動車専用で、片側2車線の4車線になっていますが、扁平な逆台形の桁の幅は32mもあります。中央は塔が建つスペースで、両側の2車線の外側に3mの余裕があり、高欄の外側にさらに2m強の飛行機の翼のような形の張り出しがあります。この形は、耐風安定性を考慮し、風洞実験によって確かめられて決められました。

橋脚はプレストレストコンクリート構造ですが、音叉のように2本に分かれ、断面も複雑な形をしています。

桁の現場架設は、橋脚の間に支保工が建てられ、橋の両岸のヤードで組み立てられた桁が順次ジャッキで押出されていきました。続いて塔が建てられた後、ケーブルが張り渡されました。現場工事は2001年10月に始まり、2004年12月に完成しました。

サービスエリアの展望台からは橋全体を見渡すことができ、今では橋が観光名所の一つになっています。

